

■司会 松本 英俊〈長崎県〉 大瀬戸町教育委員会 社会教育主事

嘉屋美智子〈広島県〉 広島県教育委員会生涯学習課 社会教育係長

5.21

1. 異年齢集団体験プログラム

9:00～9:25

ー「市房ユース宿泊登校」ー

大園 敏男〈熊本県〉 水上村立湯山小学校 教諭

主催は「湯山地区人づくり振興会議」。文部省による道徳教育の指定校となったのがきっかけ。地域が子どもを育てるということを前提に、子どもの縦のつながりを強化するため、全校児童を異年齢の二班にわけ、ユースホテルからの合宿登校を行う。親元を離れ、寝食を共にし、指導者は地域の方々。今年で3年目。地域の学校に対する協力も絶大となった。

2. ツインスタークラブ

9:25～9:50

ー多胎児家族の相互支援活動ー

吉井 一美〈福岡県〉 ツインスタークラブ 代表

目的は多胎児をもつ(もしくは妊娠中の)家族の交流、ストレスの解消、情報交換。公民館、女性センター、保健福祉センターを活動の場とし、「勉強会」、会報の発行、クリスマス会、運動会など各種レクリエーションのプログラムを企画。平成5年に7名のツインママでスタートしたが、どんどん輪が広がり、多くの多胎児家族に安心と元気をもたらしている。

～ ティータイム ～

9:50～10:25

3. 「わんぱく寺子屋寮」

10:25～10:50

ー共同生活八つのプログラムの衝撃効果ー

林田 正弘〈熊本県〉 熊本県立あしきた青少年の家 専門職員

熊本県立あしきた青少年の家を舞台に、子供達が6泊7日の通学合宿を行う。目的を自立心と社会性の育成におき、パーティーの企画準備、料理、無人島へのカッター訓練など八つのプログラムを用意した。家庭を離れ共同生活を送るという条件を最大限に活用して、活動の展開は子どもの主体的参加と協力に重点をおいた。参加者は近隣の小中学校から総数62名であった。

4. 「吉野ヶ里遺跡保存運動」の教訓

10:50～11:15

ー歴史・文化・自然保護の論理と方法ー

太田記代子〈佐賀県〉 吉野ヶ里遺跡全面保存会 佐賀中部保健所長

日本の遺跡行政は「記録保存」のみで、実物は破壊され続けるという歴史であった事は明らかであり、「実物保存」に向けて行政の決定を見るまでには非常な努力が必要であった。「吉野ヶ里遺跡全面保存会」および「佐賀の自然と文化を守る会」は全県、全国に呼び掛けて、遺跡保存と自然公園の建設を働きかけてきた。発表者は地域の医師であり、健康の視点から運動に参画し、そのプロセスと成果を報告する。

5. 総括討論

11:15～11:40

6. 総会・閉会式 (4階大研修室)

11:50～12:20